

諸福小だより

大東市立諸福小学校
令和2年1月9日(木)
校長 小林 享子
072-873-5816

ゆっくと、じっくりと、心豊かに

「何となく、今年はよい事あるごとし、元日の朝、晴れて風無し」(石川啄木)
新年あけましておめでとうございます。皆さまには、希望に満ちた令和二年の新春をお迎えのことと存じます。旧年中の、本校教育へのご理解ご協力・ご支援に対しまして、心よりお礼申し上げます。

新年早々の新聞の「時間を大切に」という投書から、ある児童書を紹介した文章を思い出しました。その児童書は『モモー時間どろぼうとぬすまれた時間を人間に取り返してくれた女の子のふしぎな物語』(ミヒヤエル・エンデ作、大島かおり訳、岩波書店、1976年)です。

「灰色の男たちが登場して、人々に、『よい暮らし』をするには無駄な時間を節約することと言葉巧みに信じ込ませて、人間からその時間を盗んでいくという何とも奇妙な物語である。」

時間を盗まれてしまった人間は、以前よりも良い洋服が着られ、稼ぎも多くなったが、常に不機嫌で、くたびれた怒りっぽい顔をして、余計なことは一切せず、とげとげしい目つきでものけにとりつかれたように働いていた。そして、1日の時間は短くなり、時があっという間に過ぎていった。

子ども達はというと、細かなところまで至れり尽くせりに作られた高価なおもちゃを与えられたり、想像することを失い、仲間で群れて遊ぶこともなくなっていた。ただ、『将来のためになる』勉強だけは親に強制されていた。

『人の心はお金で買える』、そんな拝金主義が横行し、何事もスピードがもてはやされ、市場原理が蠢動する、そして他を慮る生き方が影をひそめ、自己中心の言動がはびこる今の日本を作者は43年も前に見越していたのであろうか。

『時間とは即ち生活なのです。そして人間の生きる生活は、その人の心の中にあるものなのです。人間が時間を節約すればするほど、生活がやせ細って無くなってしまうものです。』

これは『モモ』という作品に一貫するエンデの哲学である。(「世界通信教育情報」1896号世界通信)

2月の主な行事(予定が変更の場合もあります)

2月

3日(月)	児童集会 クラブ	16日(日)	17日(月)
4日(火)	3年生社会見学		5年生スキー予備日
5日(水)	大東市小学校教育研究会 4時間授業	19日(水)	5年生出前授業 大東市小学校教育研究会 4時間授業
6日(木)	6年生市長との懇談会 諸スタ	20日(木)	諸スタ
7日(金)	3.4年生観劇 子育て講演会	21日(金)	年度末参観・懇談会
11日(火)	建国記念の日		PTA 総会
12日(水)	北河内小学校教育研究会 4時間授業	23日(日)	天皇誕生日
13日(木)	マラソン大会 諸スタ	24日(月)	振替休日
14日(金)	マラソン大会予備日	25日(火)	委員会
17日(月)	諸幼との交流会		

